1　令和６年度の主な取組

1　川崎ワカモノ未来プロジェクトの実施

【時期】令和6年11月～2月　【対象】市内在住・在学の高校生等　30名
【ステークホルダー】大学生や地域の大人、地域活動者、事業に共感する学校関係者
【概要】
高校生が自ら「本当にやりたい事」を見つけ、大学生や地域の大人のサポートを受けながら、実践に向けて取組む中で、自然とパラムーブメントの醸成につながるよう、パラムーブメント推進担当とも連携してプログラムの中に要素を取り入れるとともに、適切な地域メンターの選出など運営上の工夫を行った。

【成果と課題】
高校生世代がそれぞれのマイプロジェクトに取り組む中で、自身の成長につながるとともに、応援する大学生や地域の人たち、行政職員の意識変容にもつながり、地域における世代間交流の活性化の機会ともなっている。
今後も、若者を中心とした人の輪が、地域主体で持続可能な形で広がっていくように事業を進めていく。

2　地域包括ケアシステム連絡協議会の開催

【時期】令和6年8月（台風のため中止）、令和7年2月
【ステークホルダー】事業者・企業、保健医療福祉関係団体、
町内会・自治会、NPO法人・市民団体、大学・研究機関等
【概要】
企業を含む多様な主体の「顔の見える関係づくり」「連携のきっかけづくり」に向け、参画団体の活動紹介やグループディスカッション等を実施した。

連絡協議会の様子

【成果と課題】
令和7年1月時点で企業を含む123団体が参画しており、令和7年2月10日には、57団体が会場・オンラインで参加した。参画団体の活動報告のほか、「持っている資源を活用し、集いの場の立ち上げに協力しよう。」というテーマでグループディスカッションを行い、連携に向けた意見交換を行った。今後は、具体的なアウトプットの創出に向けた検討を進めていく。

NEW

3　「まちのひろばフェス2024」×「地ケアフェア」の合同開催

【時期】令和6年12月8日（日）　10時～15時
【ステークホルダー】地域活動者、市民活動団体、事業者・企業等
【概要】
市役所本庁舎にて、市制100周年記念事業「ほっこりポスター～かわさきって人だよね」の100枚一斉展示や、ポスターに登場する市民によるブースやワークショップ、ミニライブ等を展開し、たくさんの人が地域づくりに関わっていることや、つながりや支え合いの大切さについて考えてもらう機会とした。
「地ケアフェア」においては、上記②の連絡協議会の協力により、健康チェックなどのブースを出展し、日頃からの健康づくりの大切さを多くの市民に実感していただく機会となった。また、パネルディスカッションには、「ほっこりポスター」に登場する市民に登壇いただいた。

「地ケアフェア」のブース

「まちのひろばフェス」ミニライブ

「ほっこりポスター」の一例

【成果と課題】
当日は、市民まつりに向かう人へのアピールもできたことから、約1,000人と大勢の方に参加いただいた。二つのイベントを合同で開催することにより、多様な参加者層を呼び込むことができた。「ほっこりポスター」には、性的マイノリティ、外国人市民、福祉作業所の皆さんなども登場しており、心温まるエピソードとともに、多様な人がまちをつくっていることを来場者に伝えることができた。また、ポスターに登場する市民にも参画いただき、様々な主体のつながりも生まれた。
「地ケアフェア」の出展ブースには、令和５年度と比較して50歳代以下の若い世代が多く参加されるなど、人生100年時代に向けたセルフケアやつながりづくりに向けた意識の醸成が図られた。引き続き、幅広い世代・地域の方に参加いただけるよう、工夫しながら取り組んでいく。

4　パラムーブメント推進に向けた広報の実施

【時期】通年　　【ステークホルダー】市民の皆さん
【概要】川崎市がこれからもつながりや支えあいにあふれた都市であり続けるために、100人100通りのエピソードとともに市制100周年記念事業「ほっこりポスター」を製作、SNS等も活用しながら、つながりや支え合いの意識醸成を図った。（関連③）

5　パラムーブメントにつながる市民活動支援

【時期】令和6年4月～令和7年3月
【ステークホルダー】（公財）かわさき市民活動センター
【概要】市が交付した補助金を元に、市民活動センターが、市内で公益的な活動をしているボランティア・市民活動団体が行う事業を資金面から支援する「かわさき市民公益活動助成事業」を実施した。

スタートアップ助成の募集案内

6　障害者施設等と連携した作品等の販売

【ステークホルダー】市内の福祉事業所等

①「からすのパン屋さん」をモチーフにした創作パンの販売《幸区》

【概要】幸区ゆかりの絵本作家「かこさとし」さんの代表作をモチーフに、区内福祉事業所と連携し製作した創作パンを、毎月第2・4金曜日に幸区役所総合庁舎１階市民活動コーナー前で販売した。

創作パンの一例

②パサージュ・たまの開催《多摩区》

【概要】8月を除く月2回、多摩区総合庁舎1階アトリウムでの活動紹介、作品展示・販売を行った。10月、11月の各1回については、登戸駅南北自由通路にて出張開催（写真）。多摩区ソーシャルデザインセンターでの常設展示・販売。

パサージュ・たま（出張開催）

③あさおのおみせでの製品の販売《麻生区》

【概要】障害者の社会参加機会の確保や地域社会における共生を促進するため、麻生区役所4階にて障害者が障害福祉施設で作成した製品を販売。（火、木、金9時半～12時半）

7　福祉事業所と連携した啓発グッズの制作

【時期】令和7年3月頃　　【ステークホルダー】市内の福祉事業所
【概要】コミュニティ施策関連イベントでの配布や景品として活用する啓発グッズを福祉事業所と共同で制作し、コミュニティ施策の推進とパラムーブメントの機運醸成とを同時に図った。

タグに「パ」をデザインしたサコッシュ

8　障害者作品展の開催

【時期】令和6年12月18日（水）～22日（日）
【ステークホルダー】（公財）川崎市文化財団、特別支援学級、特別支援学校、障害者施設、障害者団体など
【概要】市内在住・在勤・在学の障害児者より応募があった、絵画、写真、書、手芸作品を一堂に展示。障害者作品展実行委員会を設置し事業の企画・運営を行った。

アートガーデンかわさきでの作品展

9　識字学習活動・識字ボランティア研修の実施

【時期】令和6年4月～令和7年3月
【ステークホルダー】外国人市民、識字ボランティア、市民館、川崎市国際交流協会、ふれあい館
【概要】各市民館等において、学習者（外国人市民等）と支援者（ボランティア）が共に学び合い多文化共生社会の実現を図るために、日常生活に必要な基礎的な日本語を身に付けるための学習を支援した。また、識字学習活動に係るボランティア等の資質向上に関する入門研修及びブラッシュアップ研修を実施した。

2　令和７年度の取組の方向性

「令和6年度かわさきパラムーブメント意識調査」の結果では、地域活動に社会的マイノリティが参加していると答えた人の割合は、令和５年度調査に比べ9.5ポイント減少し、参加していないと回答した人の割合は1.6ポイント上昇している。

※「地域活動に参加している」と回答した人に、「その地域活動に社会的少数者（マイノリティ）の方（回答者含む）は参加していますか」と質問
参加している：　令和６年度調査：28.1%（令和５年度調査37.6%）
参加していない：　令和６年度調査：43.0%（令和５年度調査41.4%）

数値からみると、状況は後退しているため、引き続き、多様な主体が地域づくりに関わりをもち、あたたかなつながりが生み出されるような取組を、庁内様々な部署において市民協働で進めていく。

3　市民等の意見聴取

様々なステークホルダーと意見交換・合意形成を図りながら効果的に取組を進めていく。